

北九州市環境基本計画の進捗状況【概要】

総合評価

年度	※総数	A	B	C	D
19	49	36 (73.5%)	12 (24.5%)	1 (2.0%)	0
20	53	40 (75.5%)	11 (20.8%)	1 (1.9%)	1 (1.9%)

総数は、着手済の事業数の合計

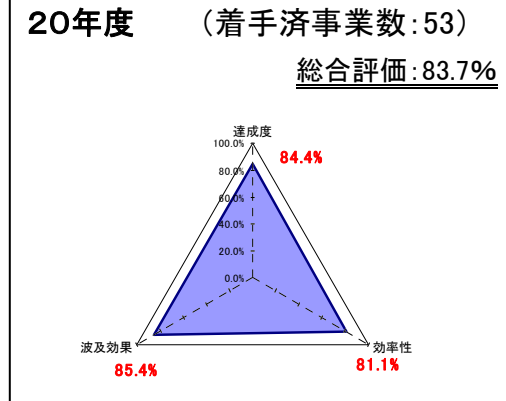
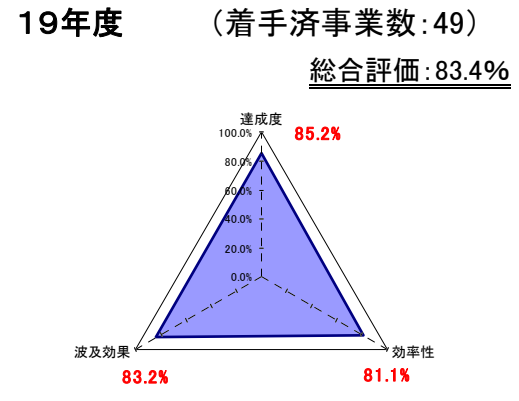
総合評価

総合評価点数から判断すると、19年度、20年度共に、総合評価は80%以上の点数となっており、概ね順調な進捗状況と判断される。

4つの基本政策部門別では、「地域から世界にひろがる北九州市民環境力の強化」が他の部門に比べ低く、19年度・20年度ともに、波及効果、効率性及び本施策部門の全体の評価が70%台となっている。その他の基本政策部門は80%以上となっている。

新たな動向

21年度以降は「環境モデル都市行動計画」に基づく事務事業が拡大した。地球温暖化対策分野だけでなく、環境学習や国際協力の分野も新たに拡充され、取り組みが進んでいる。



環境基本計画関連経費〔決算ベース〕		
	19年度	20年度
事業数 (対象事業総数)	213 (49)	210 (53)
関連経費総額 (対象事業決算額合計)	9,764,671千円 (1,564,977千円)	10,841,950千円 (1,409,750千円)

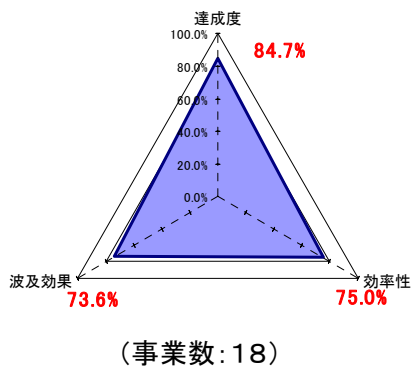
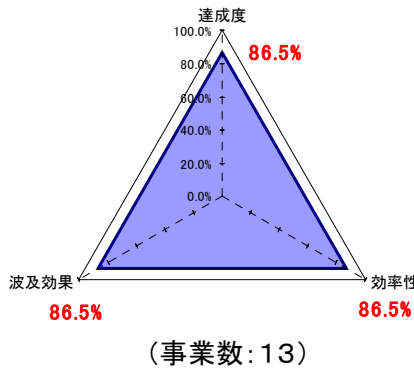
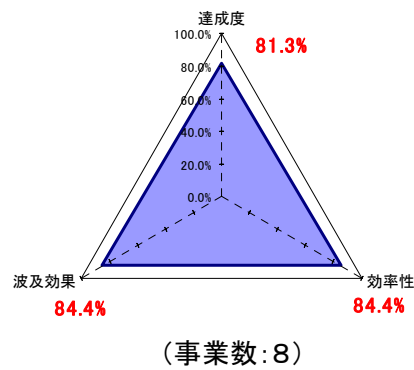
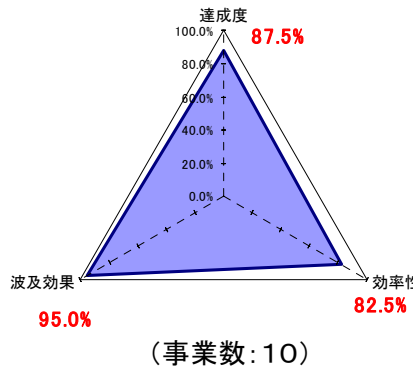
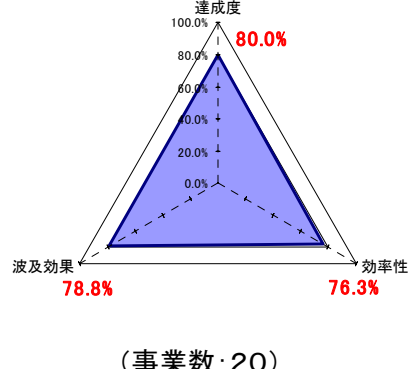
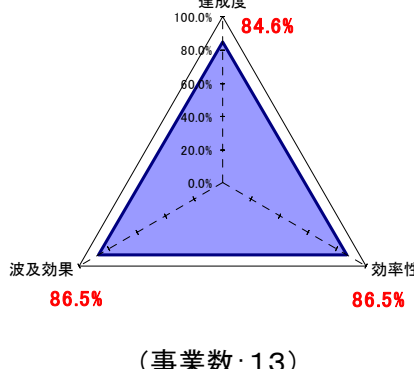
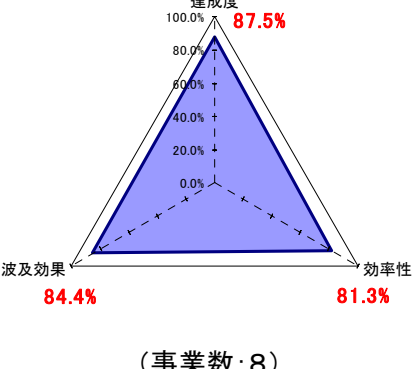
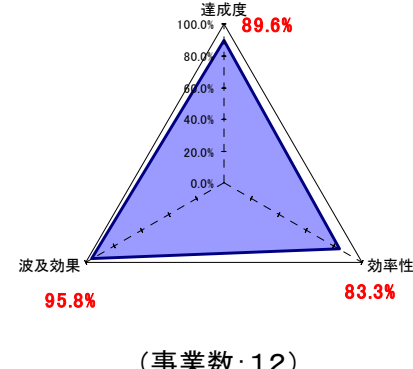
対象事業決算額には外部の機関の決算額も含んでいる。

基本施策(4分野)の評価

※同一基本政策分野に掲げる事業の内、再掲されている事業は除いている。

※着手済数には、計画・準備段階である事業(実施に向けての検討会開催や周知を行っているもの)・終了した事業は含まない。

		Ⅰ:地域から世界にひろがる 北九州市民環境力の強化				Ⅱ:地域からの地球温暖化対策の 推進				Ⅲ:循環型の生活様式 ・産業構造への転換				Ⅳ:豊かな自然環境と 快適な生活環境の確保					
		事業数		着手済数		事業数		着手済数		事業数		着手済数		事業数		着手済数			
事業数と その評価	取組状況	19年度		20		18		19		13		9		8		14		10	
		20年度		20		20		19		13		9		8		14		12	
A:積極的推進 B:一部見直し C:抜本的見直し D:廃止及び休止	19 年度	項目	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	
		事業数 (着手済数に 占める割合)	11 (61.1%)	6 (33.3%)	1 (5.6%)	0	11 (84.6%)	2 (15.4%)	0	0	5 (62.5%)	3 (37.5%)	0	0	9 (90%)	1 (10%)	0	0	
	20 年度	項目	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	
		事業数 (着手済数に 占める割合)	11 (55.0%)	8 (40.0%)	0	1 (5.0%)	11 (84.6%)	2 (15.4%)	0	0	6 (75.0%)	1 (12.5%)	1 (12.5%)	0	12 (100%)	0	0	0	

		I : 地域から世界にひろがる 北九州市民環境力の強化	II : 地域からの地球温暖化対策 の推進	III : 循環型の生活様式 ・産業構造への転換	IV : 豊かな自然環境と 快適な生活環境の確保
評価状況	19 年度	総合評価: 78.5%  (事業数: 18)	総合評価: 86.5%  (事業数: 13)	総合評価: 83.1%  (事業数: 8)	総合評価: 88.3%  (事業数: 10)
	20 年度	総合評価: 78.5%  (事業数: 20)	総合評価: 85.8%  (事業数: 13)	総合評価: 84.7%  (事業数: 8)	総合評価: 89.6%  (事業数: 12)
事業評価	評価内容 の事例	<p>「北九州市環境首都検定」制度は、20 年度から開始。当初から<u>500 人近い参加者</u>があり、環境問題への意識向上に寄与している。</p> <p>「北九州市民環境パスポート事業」におけるレジ袋のお断り率が目標の<u>20%</u>を達成し、グリーンコンシューマー育成にもつながっている。</p>	<p>■「太陽光発電などへの補助金交付事業」、「小・中学校太陽光発電の設置」などにより、<u>2 年間で家庭などへ約 240 件、小中学校には 7 校（累計 18 校）</u>が設置された。</p> <p>建築主による環境性能の自己評価制度「建築物総合環境性能評価制度(CASBEE)の構築」については、評価件数が<u>5 年間で 50 件</u>という目標を達成する実績で推移している。</p>	<p>「北九州市環境未来技術開発助成事業」は、<u>2 年間で 6 件が事業化</u>につながった。</p> <p>「北九州エコプレミアム産業創造事業」では、<u>20 年度までに 149 件の選定件数</u>となった</p> <p>「古紙リサイクル推進事業」は、<u>20 年度現在で 1,714 団体</u>の参加となり、コミュニティづくりにもつながった。</p>	<p>「響灘・鳥がさえずる緑の回廊創成事業」では、<u>20 年度末までに約 4 万本の植樹</u>を実施。</p> <p>「自然環境サポーター養成事業」は 19 年度までに<u>159 人</u>を養成し、20 年度は既存サポーターのステップアップ講座を実施。</p> <p>「光化学スモッグ発生原因の究明に関する調査」は、20 年度から調査を開始した。</p>
	課題となる 事項	<p>「地域循環型生ごみ処理機リサイクル事業」については、事業を抜本的に見直す。</p> <p>「環境首都 1 万人フォーラム〔エコライフネット〕」については、工夫を加えエコライフネットの活性化を検討。</p> <p>「リサイクルプラザ・エコライフプラザ」のうち、リサイクルプラザの来館者数は減少傾向にあり、事業のあり方を検討する。</p>	<p>「まちのエネルギーシェイプアップ事業」の事業者向け省エネ診断については、診断の新規実施と合わせて、実施済み分のフォローアップも行っていく。</p> <p>「八幡東田地区グリーンビレッジ構想」については、「エコドライブ推進モデル事業」の以外の事業は、それぞれ事業者との連携などにより取組を行っている。</p>	<p>「エコアクション 21 認証・登録支援事業」については、認証の取得企業数が減少傾向も見られるが、認証取得企業の多くが本事業の講座を活用していることから、一層の PR や指導・助言を行う。</p> <p>「生ごみリサイクル対策事業」については、周知・普及には一定の成果あがったので、今後制度のあり方を検討していく。</p>	<p>20 年度から事業を開始した「市民植樹・美しいまちづくり事業・100 万本植樹」は、15 年間で 100 万本の植樹を目標としている。市民への周知を一層行う必要がある。</p> <p>「里地里山の保全と持続的な利用」については、関係者との協議などを行い、20 年度はエコツアーの他、「里山ウォーキングマップ」作成や荒廃竹林での植樹などを実施した。</p>

※各項目の%は、それぞれの項目のA~D評価を点数換算し、割合を求めたもの。